

舘野 泉(たての いずみ)さんのコンサート

4月23日(金)の午後に、左手のピアニスト舘野泉さんのコンサートが、遺愛の講堂で遺愛生向けの芸術鑑賞として催されました。前半が中学と高1、後半は高2と高3対象に1時間ずつ行われました。1曲目が「シャコンヌニ短調」(バッハ/ブラームス編曲)、2曲目が「前奏曲と夜想曲」Op.9(スクリャービン)、3曲目が「休暇の日々より」(セヴラック)、4曲目「Divertimento」(エスカンデ)、そして最後にカッチーニの「アヴェ・マリア」でした。

後半の曲になればなるほど、講堂のスタインウェイのピアノの音に深みと柔らかさが増し加わり、抒情あふれる演奏になっていきました。3曲目の演奏では、共演の平原あゆみさんと三手連弾となりました。演奏前に、お二人にそれぞれの印象を聞いてみました。舘野さんは、平原さんのことを「心に強さ、しなやかさを感じます。大地からわきあがるような情熱としなやかな抒情性をあわせもつ逸材。10~20年経ってその才能が大きく開花するでしょう!」とおっしゃっていました。平原さんは舘野さんのことを「全てが素晴らしい。全てがお手本」と語っていました。そのとおり、お二人の連弾は、平原さんの力強さと舘野さんの全てを包み込むようで繊細で深みを感じさせる演奏が非常にマッチしていました。

最後に舘野さんにより演奏されたカッチーニの「アヴェ・マリア」は、どうしてこうもしっとりと切なく奏でることができるのだろうと思わせるくらい情感がこもっていました。涙ぐみながらじっと演奏に聴き入る遺愛生の姿が印象的でした。



2010年4月26日

舘野泉さんの演奏の様子 (遺愛講堂)